

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

| 事業所名     |    | 公表日 令和 7 年 4 月 25 日                                                                   |      |       |                                                                                                                    |                                                                                                                                                      |
|----------|----|---------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          |    | チェック項目                                                                                | (はい) | (いいえ) | 工夫している点                                                                                                            | 課題や改善すべき点                                                                                                                                            |
| 環境・体制整備  | 1  | 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。                                                          | 4    | 1     | 学習スペース、遊ぶスペース、おやつスペースが確保されている。時間帯によっては机の使用に工夫が必要ではある。                                                              | 小学校高学年で活発な児童が多く、利用人数が多い日は活動スペースが手狭に感じられ、十分に体を動かすことが難しい場面がある。支援室の広さは基準の2倍以上あるが、不穏時に気持ちを落ち着けるスペースがなく、現在は事務室等で対応している。今後は、年齢や特性に応じた安心できる居場所の工夫が求められる。    |
|          | 2  | 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。                                                      | 3    | 2     | 法的な職員配置基準は十分に満たしており、安全の確保やより良い療育の実現のため、日々の活動や支援の流れを調整しながら、複数の職員で協力して対応できる体制を意識している。                                | 送迎時に支援員が添乗に回ることなどで、療育現場が一時的に手薄になることがある。障がい特性により対一での対応が求められる児童への支援体制に課題が残る。また、配置数は基準を満たしているものの、職員によって支援スキルや経験に差があることから、今後はスキルの底上げや研修機会の充実を図っていく必要がある。 |
|          | 3  | 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 5    | 0     | 段差の少ない構造で安全面や身体的配慮にも努めている。                                                                                         | 視覚的なサインの強化や音・照明など感覚的な配慮を含め、さらなる環境改善が今後の課題である。                                                                                                        |
|          | 4  | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。                                 | 5    | 0     | 清掃や換気を徹底し、こどもたちが安心して過ごせる清潔な環境づくりに努めている。                                                                            | 視覚的な区分けやスペースの有効活用など、より落ち着いて過ごせる環境づくりに向けた工夫が必要である。                                                                                                    |
|          | 5  | 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。                                            | 2    | 3     | 個別学習用に仕切りのある机を設け、一人で落ち着いて過ごせるスペースを確保している。支援室内のレイアウトも状況に応じて調整し、静かに過ごしたい子どもが無理なく居場所を見つけられるよう工夫している。                  | 専用のクールダウンスペースがないため、癇癪や気持ちの切り替えが難しい場面において、十分に安心できる場所を提供しづらいことがある。中には静かな環境を求めて、お手洗いなどに自ら向かう様子が見られることもあり、適切に落ち着ける空間の整備が今後の課題である。                        |
| 業務改善     | 6  | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。                                        | 5    | 0     | 日々のミーティングを通じて、支援内容の振り返りや課題の共有を行い、業務改善に向けた意見交換を行っている。                                                               | 記録や進捗の見える化を進め、組織的な業務改善へつなげる仕組みづくりが課題である。                                                                                                             |
|          | 7  | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。                                  | 5    | 0     | 集計後にミーティングを行い改善に繋げている。また、必要に応じ保護者に説明を行う。                                                                           | 配布方法や設問の工夫を行い、より多くの保護者の声を聞き取り、改善に活かせる仕組みづくりを検討していく。                                                                                                  |
|          | 8  | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。                                                | 5    | 0     | 日々のミーティングや個別の相談、定期的な面談を通じて職員の意見や気づきを聞き取る機会を設けている。                                                                  | フィードバックの方法を工夫し、意見が活かされていることを実感できる仕組みの整備が課題である。                                                                                                       |
|          | 9  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。                                                      | 0    | 5     | 現在、外部評価の実施には至っていないが、日々の自己評価や職員からの意見をもとに、支援内容や運営体制の見直しに取り組んでいる。                                                     | 自事業所だけでは気づきにくい課題の把握に限界がある。今後は第三者評価の導入を検討し、より質の高い支援・運営体制づくりを目指していくことが課題である。                                                                           |
|          | 10 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。                                     | 5    | 0     | 定期的に事業所内研修を実施し、支援に必要な知識や技術の習得を図っている。外部の研修についても、参加可能な機会を見つけて積極的に参加できるよう配慮している。                                      | 今後は研修記録や動画視聴の活用、共有ツールの整備などにより、継続的に学びを深める体制づくりが課題である。                                                                                                 |
| 適切な支援の提供 | 11 | 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。                                                               | 5    | 0     | 支援プログラムを作成し、保護者が内容を確認できるようホームページ等で公表している。季節や子どもたちの様子に合わせて内容を見直ししながら、わかりやすく開示することを心がけている。                           | プログラムの内容が一部保護者にとってわかりにくい場合もあるため、視覚的に伝わりやすい形式や説明の工夫が必要である。今後は、活動の意図やねらいもあわせて伝える工夫を進めていくことが課題である。                                                      |
|          | 12 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。                | 5    | 0     | 個別支援計画の作成にあたり、6か月に1回以上の頻度でアセスメントとモニタリングを実施し、保護者との面談を通じてニーズや課題を丁寧に把握している。児童の特性や生活状況に応じた目標設定を行い、適切な支援計画を作成するよう努めている。 | アセスメントの内容が職員間で共有しきれない場合があり、情報の一貫性に課題が残ることがある。今後は記録の精度向上とチーム内での確認体制の強化により、より質の高い支援計画の作成につなげていく必要がある。                                                  |
|          | 13 | 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。  | 5    | 0     | 日々関わっている職員全員で意見を出し合い、子どもの特性や変化を共有しながら検討を行っている。チーム全体で共通理解を深め、こどもにとって最善の支援となるよう努めている。                                | 意見交換の場はあるものの、業務の都合で全員が十分に関われないケースもある。今後は記録や共有方法を工夫し、支援方針への一体感がさらに高まるような環境づくりが課題である。                                                                  |

|    |                                                                                                                                                      |   |   |                                                                                                                                 |                                                                                                                 |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 14 | 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。                                                                                                              | 5 | 0 | 作成した個別支援計画は全職員で共有し、支援現場でもいつでも確認できるようにしている。計画に沿った支援が行えるよう、日々のやりとりの中でも意識して対応することを心がけている。                                          | 日々の業務の中で支援内容が計画から離れてしまうことがないよう、定期的に振り返る仕組みや記録の活用が課題である。今後は、より計画を意識しやすい環境づくりと、個別支援の質の向上を目指していく。                  |
| 15 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。                                                                  | 5 | 0 | 日々の行動観察を通してこどもの変化や適応状況を記録し、支援の見直しに活かしている。より客観的な視点で支援計画に反映するよう努めている。                                                             | インフォーマルな観察に比べ、フォーマルなアセスメントの活用は限られており、継続的な評価や記録方法にばらつきがある。今後は支援の質を高めるため、評価の記録や職員間の共通理解を深める仕組みづくりが課題である。          |
| 16 | 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。 | 5 | 0 | 放課後等デイサービスガイドラインに基づき、本人支援・家族支援・移行支援・地域支援の4つの視点を意識しながら支援計画を作成している。                                                               | 視点ごとのチェック体制を強化し、抜け漏れのない計画づくりを進めていくことが課題である。                                                                     |
| 17 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか。                                                                                                                               | 5 | 0 | 活動内容は定期的なミーティングで全職員が意見を出し合いながら立案している。子どもたちの興味関心や発達段階を踏まえ、季節や行事に応じたプログラムを職員間で協力して計画している。                                         | 週単位・月単位での共有体制を強化し、より計画的で質の高いプログラム提供につなげていくことが課題である。                                                             |
| 18 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。                                                                                                                             | 5 | 0 | 事業所全体で活動内容の検討や振り返りを行い、プログラムが固定化しないように工夫している。職員間でアイデアを出し合い、常勤・非常勤を問わず幅広い視点を取り入れて、子どもたちの興味や季節に応じた活動を計画している。                       | 実施可能な内容に限られる中で、どうしても同じような活動が続くこともある。今後はこどもの反応を振り返りながらプログラムの質を高め、創造的な取り組みを取り入れていく工夫が必要である。                       |
| 19 | こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。                                                                                             | 5 | 0 | 児童の特性やその日の状態に応じて、無理のない範囲で個別活動と集団活動を組み合わせ支援している。個別支援計画には、それぞれに適した活動内容を盛り込み、集団の中でも安心して過ごせるよう配慮している。                               | 集団活動への参加が難しい子どもに対して、柔軟な対応はしているものの、スタッフの配置や時間の調整が課題となる場合がある。今後は、より個別のニーズに合った活動構成や環境づくりに向けた工夫が求められる。              |
| 20 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。                                                                                      | 5 | 0 | 毎日朝礼を実施し、その日の支援内容や役割分担、配慮が必要な児童について職員間で確認・共有している。新たな気づきや連携上の注意点もその場で話し合い、チーム全体で支援に臨めるようにしている。                                   | 非常勤職員や添乗業務などで朝礼に参加できない職員もあり、情報伝達に差が生じることがある。今後は記録の共有方法や情報伝達の工夫を進め、全職員が共通理解をもって支援にあたれる環境づくりが課題である。               |
| 21 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。                                                                                               | 3 | 2 | 毎朝の朝礼で前日の支援内容や気づきについて職員間で共有を行っている。朝礼に参加できない非常勤職員に対しても、内容を記録に残し、見える化することで情報共有に努めている。                                             | 「いいえ」と回答した職員に対しても朝礼記録の共有など工夫を行っているが、全職員が直接意見交換できる場は限られている。今後は非常勤職員も含め、定期的に全員が参加できるミーティングの場を設けることが課題である。         |
| 22 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。                                                                                                               | 5 | 0 | 個人ノートを活用し、連絡帳とは別に、子どもの様子に変化が見られた時や支援上の課題が明らかになった時などに、必要な情報を随時記録している。記録を蓄積することで、支援の振り返りや改善につなげるよう努めている。                          | 記録の内容や表現に職員間で差が出ることもあり、情報の一貫性が課題となる場合がある。今後は記録の質を高めるためのフォーマットや指針の整備、定期的な振り返りの場の充実が必要である。                        |
| 23 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。                                                                                                | 5 | 0 | 法令に基づき、6か月以内に1回のモニタリングを実施し、必要に応じて支援内容や放課後等デイサービス計画の見直しを行っている。日々の記録や支援経過をもとに、子どもの変化や目標への取り組みの様子を柔軟に捉えながら、必要に応じて支援方法や目標の調整を行っている。 | モニタリング結果を職員間で共有する体制を強化し、計画の改善がチーム全体で一貫して行えるようにしていくことが課題である。                                                     |
| 24 | 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。                                                                                                         | 5 | 0 | 日々の支援に複数の活動を組み合わせ計画・実施することを心がけている。創作活動や余暇に加えて、SSTや地域交流なども取り入れ、子どもたちの興味や発達段階に応じた支援を意識している。                                       | 児童によって興味や得意分野に差があるため、活動内容が偏りやすい場面もある。今後は、4つの基本活動の視点を意識しながら、子ども一人ひとりに合った参加の仕方ができるよう、活動内容のバリエーションを工夫していくことが課題である。 |
| 25 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。                                                                                                 | 5 | 0 | 活動の選択肢を提示し、その中からこどもがやりたいことを自分で選ぶようにしている。生活の中でも「どうしたいか」「どちらを選ぶか」といった声かけを日常的に行い、こどもの自己決定を尊重する支援を心がけている。                           | 児童の理解度や特性に応じて、選択肢の伝え方に工夫が必要な場面がある。今後は視覚的なツールや個別の支援方法をさらに取り入れ、すべてのこどもが安心して選び、決定できるような支援環境の充実を目指していく。             |

|              |    |                                                                                    |   |   |                                                                                                                                     |                                                                                                            |
|--------------|----|------------------------------------------------------------------------------------|---|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 関係機関や保護者との連携 | 26 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。                           | 5 | 0 | サービス担当者会議や関係機関との連絡調整の場には、該当児童の支援に日常的に関わっている職員や、児童発達支援管理責任者が参加し、実際の支援状況や成長の様子を踏まえた情報提供を行っている。                                        | 会議の時間帯や日程によっては主担当の職員が出席できない場合もあるため、支援の一貫性を保つための情報共有や記録の整理を強化し、誰が出席しても適切に伝えられる体制づくりが課題である。                  |
|              | 27 | 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。                         | 5 | 0 | 学校、他事業所や相談支援事業所等とも月1回以上の情報共有を行い、必要に応じて支援体制の調整を行っている。<br>関係機関との連携を通じて、子ども一人ひとりに応じた適切な支援が提供できるよう努めている。                                | 関係機関ごとに対応の仕方や情報の伝達手段が異なるため、連携がスムーズにいかない場面もある。今後は連絡体制や記録の整理を強化し、より確実な連携支援の体制づくりを進めていく必要がある。                 |
|              | 28 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。            | 5 | 0 | 保護者とも密に連絡を取ったうえで、学校のホームページや電話連絡等を活用し、月末・月初を中心に行事予定や下校時刻などの情報を確認している。学校・保護者双方との連携を通じて、支援に必要な情報を的確に把握できるよう努めている。                      | 学校によって対応が異なるため、情報の取得や共有に時間がかかることがある。今後は定期的な確認方法の統一や、保護者を通じた情報取得の工夫など、よりスムーズな連携体制の強化が課題である。                 |
|              | 29 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。                           | 5 | 0 | 就学前に利用していた保育所等と情報共有を行い、スムーズな移行支援につなげている。<br>必要に応じて面談や連絡を通じ、支援方針の引き継ぎや相互理解に努めている。                                                    | 転入児や情報が得られにくいケースでは、支援開始後に状況を把握することもあるため、事前情報の収集方法にばらつきが出ることがある。今後は、保護者を通じた連携強化や、情報共有の標準化が課題である。            |
|              | 30 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。                   | 5 | 0 | 該当児童はいないが、体制は整えていく。<br>今はまだいないが、その際には情報共有する。<br>過去に事例がないが、機会があれば行うつもりをしている。                                                         | 移行先が決まる時期や支援体制が不明瞭なこともあり、情報提供が十分に行えないケースもある。今後は早期からの情報収集と連携体制の強化を図り、児童が安心して移行できるよう支援を継続していくことが課題である。       |
|              | 31 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。                            | 5 | 0 | 地域の児童発達支援センターとの具体的な連携や、スーパーバイズ・助言を受ける体制は整備されておらず、必要に応じた連携機会が設けられていない状況です。一方で、外部研修や法人内研修については職員が積極的に参加するよう努めており、日々の支援に活かすよう取り組んでいます。 | 児童発達支援センターとの連携体制の強化についても検討し、支援の質の向上につなげていくことが課題と考えています。                                                    |
|              | 32 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。                                             | 5 | 0 | 地域には放課後児童クラブ等があるが、現時点では施設間での交流は実施していない。日常の支援では、公園遊びや地域活動等を通じて、地域の児童と自然に関わる機会が持てるよう配慮している。                                           | 施設間での交流機会を設けていないため、児童同士が異なる場で関わる経験が乏しい状況にある。今後は安全面や支援体制を検討しながら、地域の児童との交流の場を積極的に創出できるよう模索していくことが課題である。      |
|              | 33 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。                                                            | 4 | 1 | 管理者や児童発達支援管理責任者が定期的に協議会へ出席し、地域の動向や他機関の情報を把握している。得られた情報はミーティング時に職員へ共有し、事業所内での支援に活かせるよう努めている。                                         | 協議会で得た情報が現場全体に十分に浸透しないことがあるため、今後は会議の内容や地域課題について、職員全体が意識を持てるような共有方法の工夫が課題である。                               |
|              | 34 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。                                   | 4 | 1 | 送迎時にほぼ毎日大半の保護者と顔を合わせしており、児童の様子やその日の出来事をその場で伝え合うことができている。小さな変化や気づきも共有しやすく、家庭との連携を密に取りながら、発達や課題について共通理解を持てるよう努めている。                   | 日々のやりとりは非公式な形が多く、記録として残しづらいことや、支援計画に十分反映しきれていないこともある。今後は記録の工夫や定期的な面談の活用を通じて、より計画的な共有体制を整えていくことが課題である。      |
|              | 35 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。       | 1 | 4 | 現時点では体系的な家族支援プログラムの実施は行っていないが、個別の面談や日常的なやりとりの中で、必要に応じて保護者へ情報提供や助言を行っている。今後、必要性が高まった際には、参加しやすい形式での支援機会の提供を検討していく。                    | 家庭支援プログラムや研修の実施には関心があるものの、保護者の参加意欲や時間的制約を踏まえると、継続的な提供が難しい現状がある。今後はアンケート等を通じてニーズを把握し、参加しやすい形式やテーマ設定を検討していく。 |
|              | 36 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。                                               | 5 | 0 | 契約時の面談にて、運営規程・支援内容・利用者負担について一つひとつ丁寧に説明を行っている。説明後には質疑応答の時間を設け、不明点がないよう確認しているほか、資料もあわせて提供し、後からでも確認できるようにしている。                         | 内容が専門的になりやすく、保護者によっては理解に差が出ることもあるため、今後は視覚的な資料や簡易説明書などを活用し、よりわかりやすく説明できる工夫が必要である。                           |
|              | 37 | 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | 5 | 0 | 目標や希望を丁寧に聞き取り、それぞれの思いや状況をふまえた計画を立てている。本人の気持ちや意欲を尊重し、できるだけ支援に反映するよう心がけている。                                                           | 児童の意思を確認する際、表現が難しい児童に対しては聞き取りが一面的になってしまうことがある。今後は、視覚的なツールや時間をかけた関わりを通じて、本人の気持ちをより丁寧に把握できる支援の工夫が求められる。      |

|          |    |                                                                                            |   |   |                                                                                                                              |                                                                                                             |
|----------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 保護者への説明等 | 38 | 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。                                 | 5 | 0 | 支援内容をわかりやすく説明しながら、放課後等デイサービス計画を提示し、保護者の同意をいただいている。                                                                           | 計画の内容が専門的な場合、保護者によっては十分に理解しにくいこともあるため、今後は言葉や資料の工夫を通じて、よりわかりやすい説明ができるよう取り組んでいく必要がある。                         |
|          | 39 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。                                              | 5 | 0 | 送迎時や日々のコミュニケーションを通じて保護者の声に耳を傾け、必要に応じて助言や対応を行っている。電話やSMSなども活用し、タイミングに応じて柔軟に連絡・相談できる体制を整えている。                                  | 忙しい時間帯での対応が中心となることもあり、じっくり話を聞く時間が十分に確保できないことがある。今後は相談を受けやすい時間や手段をあらかじめ設け、より丁寧な関わりを継続できる体制の整備が課題である。         |
|          | 40 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。 | 2 | 3 | 家庭との連携を大切に、保護者との個別のやりとりを通じて子育ての情報交換や相談をしやすい関係づくりに努めている。                                                                      | 現時点では保護者会など保護者同士が直接交流できる機会の実施には至っておらず、きょうだい同士の交流も個別対応にとどまっている。今後はニーズの把握や参加しやすい形式の検討を行い、交流の場を設けることを目指していきたい。 |
|          | 41 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。                       | 5 | 0 | 苦情対応の窓口や担当者を運営規程等に明記し、契約時や必要に応じて保護者へ周知している。苦情などがあった場合は、迅速に対応するよう心がけている。                                                      | 定期的なアンケートや相談しやすい環境づくりを通じて、気づきや要望を前向きに受け止められる仕組みの充実が課題である。                                                   |
|          | 42 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。                   | 5 | 0 | SNSを活用し、日々の活動の様子や取り組みの概要を写真や文章で保護者に共有している。内容は個人情報に配慮したうえで、こどもたちの様子が伝わるよう工夫している。                                              | SNSを利用できない保護者への情報提供が限定的になりがちなため、紙媒体や掲示物など複数の方法での発信を検討していく必要がある。あわせて、定期的な通信や行事予定のまとめを工夫し、よりわかりやすい発信を目指していく。  |
|          | 43 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。                                                                        | 5 | 0 | 個人情報の取り扱いについては、運営規程に基づき適切に管理している。                                                                                            | 定期的に取り扱い方の見直しや職員への再確認を行い、安心して利用できる環境を継続して整備していくことが課題である。                                                    |
|          | 44 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。                                                      | 5 | 0 | こども一人ひとりの理解力やコミュニケーション方法に応じて、写真や絵カード、視覚スケジュールなどを活用し、わかりやすく伝えるよう工夫している。保護者に対しても、口頭だけでなく書面やSNSなど複数の手段を用い、丁寧な説明と共有を心がけている。      | 支援の中で日々工夫しているが、特に初めて関わるこどもや新しい職員間での情報の統一に課題がある。今後は、支援マニュアルや個別の配慮リストを整備することで、より一貫性のある対応を図っていく。               |
| 非常時等の対応  | 45 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。                                                      | 5 | 0 | 現在は行事への招待は行っていないが、近隣施設や地域の関係機関と情報交換を行うなど、地域とのつながりを大切にしている。また、地域の行事や公園活動に参加するなど、こどもたちが地域の中で自然に関われる機会を取り入れるようにしている。            | 感染症対策や安全面の配慮から地域住民を直接招く行事は実施していないが、今後は地域との関わり方を工夫し、外部に活動を知ってもらう機会の創出や、交流のきっかけづくりを検討していく必要がある。               |
|          | 46 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。            | 5 | 0 | 各種マニュアル（事故防止・緊急時対応・防犯・感染症等）を策定し、職員には定期的に確認・共有している。イベントに取り入れ、保護者にもその内容を共有するなど、情報提供を行い、安心して通所してもらえるよう配慮している。                   | 災害や感染症などに関する対応について、家庭と連携した共有の機会を増やすことが課題である。職員への再確認と併せて、継続的な訓練と情報提供を進めていく。                                  |
|          | 47 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。                                  | 5 | 0 | 業務継続計画（BCP）を策定し、災害時や感染症流行時にも必要な支援が継続できる体制を整えている。職員・児童共に非常時の対応に慣れおけるよう配慮している。                                                 | 計画と実践との間に差が生じることがある。今後はBCPの内容を定期的に見直すとともに、実際の訓練で課題を振り返り、より実効性のある対策に改善していく必要がある。                             |
|          | 48 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。                                                        | 5 | 0 | 利用開始前の面談時に、服薬状況や既往歴、てんかんの有無だけではなく健康に関する情報を丁寧に確認している。必要に応じて医師の指示内容を共有してもらい、支援時に留意すべき点を職員間で共有して安全な支援につなげている。                   | 情報は初回に確認しているが、体調の変化や新たな服薬があった際の情報更新が保護者任せになりやすい。今後は定期的な確認の仕組みや、保護者との連絡手段の工夫により、より確実な情報把握を目指していく。            |
|          | 49 | 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。                                                     | 5 | 0 | 入所前にアレルギーに関する医師の指示書の提出や保護者から聞き取りを行い、対象児童の情報は職員間で共有している。調理内容やおやつを選定にも十分配慮し、誤提供を防ぐためにダブルチェックを徹底している。また、万一に備えて緊急対応マニュアルも整備している。 | アレルギー情報が更新された際の対応に遅れが出ないよう、保護者との情報連携をより密に行う必要がある。今後は定期的な確認の機会を設け、継続的に安全管理体制を見直していくことが課題である。                 |
|          | 50 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。                               | 5 | 0 | 安全計画に基づき、避難訓練やヒヤリ・ハットの共有、安全確認のための定期的な見回りなどを実施している。新入職員への安全研修や、定期的な振り返りも行い、職員全体で安全意識を高めながら支援を行っている。                           | 訓練の実施が場面に依りて形式的になりやすいため、実際の想定に基づいた実践的な訓練や振り返りの精度を高める必要がある。今後は職員間での情報共有と役割分担の明確化を図り、より実効性のある安全体制づくりが課題である。   |

|  |    |                                                                                  |   |   |                                                                                                                               |                                                                                                          |
|--|----|----------------------------------------------------------------------------------|---|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 51 | こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。                        | 5 | 0 | 避難訓練の実施内容や感染症対策、緊急時の対応マニュアルなど、安全に関する取り組みについては、必要に応じて保護者に説明・共有している。SNSや連絡帳等も活用し、安心して通所してもらえるよう情報発信に努めている。                      | 安全に関する取り組みが職員内にとどまり、保護者への周知が限定的な場合もある。今後は、保護者会や通信などを通じて、安全計画のポイントをわかりやすく伝え、家庭とも連携した安全意識の共有を進めていく必要がある。   |
|  | 52 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。                                          | 5 | 0 | 日々の支援の中で発生したヒヤリハット事例については、速やかに記録・報告し、ミーティング等で職員間で共有している。原因や背景を振り返り、再発防止のための対応策を職員全体で話し合い、支援や環境の見直しにつなげている。                    | 細部の記録は必ず行っている。共有が口頭ベースになることもあり、全員に正確に伝わらないケースがある。今後は様式の統一や掲示・文書による明文化を進め、共有体制をより確実に整えることが課題である。          |
|  | 53 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。                                             | 5 | 0 | 虐待防止に関する研修を年1回以上実施し、児童との関わり方や適切な対応を防ぐための意識付けを行っている。新人職員に対しても初期研修の中で虐待防止に関する基本的な知識と対応を学ぶ機会を設けている。                              | 日常業務の中での見落としや慣れによる判断の甘さが起きないように、定期的な振り返りやケース検討の実施が求められる。今後は、より具体的な事例を交えた研修や、第三者視点での気づきを促す仕組みの整備が課題である。   |
|  | 54 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 5 | 0 | 原則として身体拘束は行わない方針を明確にし、安全確保のためやむを得ない場合に限って、児童の特性や状況に応じた対応を検討している。必要があると判断した場合は、職員間で協議のうえ組織的に判断し、保護者に丁寧に説明・同意を得たうえで、計画にも明記している。 | 身体拘束に関する基準や判断に曖昧さが残らないよう、職員全体の理解を深める継続的な研修が必要である。今後は倫理的な視点も含めて判断・記録の仕組みを整え、より透明性と適切性のある対応体制を構築していく必要がある。 |